

に製作が依頼されました。2階のギャラリーの端に見えるパイプは、古いオルガンのものです。

チャールズ・ディケンズは、デボンシャー・テラスにある教区教会の隣に、長年、家族と一緒に住んでいました。ディケンズの息子はここで洗礼を受け、その儀式の様子は、彼の小説「ドンビー父子」に描かれています。

第2次世界大戦中の爆撃による被害で、ステンドグラス窓や、ジョージ王朝時代の屋根などが破壊されました。破壊された窓の破片は集められ、今日見ることの出来る窓に嵌め込まれています。

セント・メリルボーン自治区が、ミドル・セックスのその他の大都市型自治区と合併してウェストミンスター市が形成されたことを受け、クリスタル製の素晴らしいシャンデリアが、1968年にセント・メリルボーン区庁舎の旧会議室からここに移されました。

記念碑の見事なコレクションが教区教会の壁を飾っています。その多くは、植民地の行政官や総督、東インド会社のメンバー達に関するものです。

セント・メリルボーン教区教会は、常々優れた音楽の伝統を誇り、今日、10声から成るプロの聖歌隊が、音楽監督、音楽監督補佐及びオルガン特待生による支援を受けています。ジョン・スタイナー卿は、1886年に聖歌隊のための聖譚曲「磔刑」を作り、以来毎年演奏されています。

1846年9月12日にここで行われた二人の詩人ロバート・ブラウニングとエリザベス・バレットの結婚を記念するブラウニング・ルームには、ウィニペグのブラウニング協会より贈られたステンドグラス窓があります。詩人達の二つの素晴らしい真鍮製の「浅浮き彫り」もまたこの部屋にあります。

見事な後陣、マホガニーの長椅子や聖歌隊用椅子、並びに金色の英国バロック様式に配された装飾はすべて1880年代半ばからのもので、トマス・ハードウィックがデザインしました。作業は1884年に始まり、グラッドストーン夫人により据えられた記念碑が後陣の外壁に見られます。後陣の装飾はエドワード・アーミティッジによるもので、その構成に沿って、嘗てはギャラリー階にある大きな窓の間に壁画が描かれていましたが、その壁画は1940年代後半に塗りつぶされました。

キリスト教の礼拝を行う場所のひとつとして、900年に渡り、ロンドン中心地でのその努めを果たしてきました。オックスフォード・ストリート北側、エッジウェア・ロード東側、そしてクリーブランド・ストリート西側のすべての教区教会は、当教区の教会牧師と教区委員により「種をまかれて」きました。2016年には、遺産宝くじ基金により、教区教会に約4百万ポンドの助成金が授与され、歳月による荒廃を修復し、地下室を拡張し、セント・メリルボーンの物語を田舎の小さな村から大都市へ伝える手伝いをするという意欲的な計画を遂行する一助となっています。セント・メリルボーンは、神の恩寵により、人々の生活を変え、地域社会を形成するという努めを続けていきます。

スティーヴン・エヴァンス参事司祭、教区牧師

のヒーリング・アンド・カウンセリング・センター、聖莫礼拝堂、エルサレム礼拝堂及び NHS メリルボーン・ヘルス・センターへと変貌を遂げました。

1817年2月に誕生した現在の教区教会は、当教区で4番目の教区教会の建物であると考えられています。

12世紀初め頃に設立された最初の建物は、福音記者ヨハネに捧げられたタイバーンとリソン（リルストーン）の荘園の教区教会でした。現在のオックスフォード・ストリートにあるストラトフォード・プレイス傍の敷地に建ち、実際、ストラトフォード・プレイスの中庭が、最初の教区教会の墓地であったと考えられています。

1400年までに、セント・ヨハネ教会は荒廃し取り壊され、新しい教区教会がタイバーンの荘園領主館（現在のロンドン・クリニックのデボンシャー公爵夫人棟）の向かいに建てられました。この教区教会とその次に建てられた教会があった場所は現在、メリルボーン・ハイストリート北端のオールド・チャーチ・メモリアル・ガーデンとなっています。フランシス・ベーコンは、1606年5月11日にこの教会で結婚しました。

1740年に、新しい教区教会が同じ場所に建てられました。ここには、メソジスト派の創始者の一人であるチャールズ・ウェズリーがその家族と共に埋葬されており、彼を追悼する記念のオベリスクが建てられています。また、バイロン卿が洗礼を受け、ネルソン卿が礼拝に出席し、1803年5月3日に、彼とレディー・ハミルトン（彼女自身、ここで結婚した）との間に生まれた娘の洗礼が行われたのもここでした。この教区教会は多くの著名人と繋がりがあり、教会内部の様子は、ウィリアム・ホガースの連作「放蕩一代記」の一作「カネを目当ての結婚」に描かれています。アン・オブ・デンマークとヘンリエッタ・マリア女王の酌人への記念碑等、その壁を埋め尽くしていた多くの記念碑の一部は、現在の教区教会の階段に飾られています。1949年に（第2次世界大戦による被害を受けて）古い教区教会が取り壊された際に、現在の場所へ移された品々です。この建物と関連が有るその他の人物には、ジェイムズ・フィグ、ジェイムズ・ギブズ、エドモンド・ホイル、ジョン・ライズブラック、ジョン・アレン、ジェイムズ・ファーガソン、アラン・ラムジー、スティーヴン・ストレース、ポートランド公爵、キャロライン・ワトソンが含まれます。

現在の教区教会が当初（約8万ポンドもの費用をかけて）建設された際、ローマ・ルネッサンス様式のフラスコ画が描かれた立派な後陣はありませんでしたが、1884年にトマス・ハリスにより付け加えられました。祭壇は元々、天井に据えられた十字架の丁度下、現在は聖歌隊席となっている場所にありました。この祭壇（その前で、1846年にロバート・ブラウニングとエリザベス・バレットが結婚した）は現在、聖家族礼拝堂にあり、その上には、ベンジャミン・ウェスト（1738-1820年）が新しい教区教会に寄贈した聖家族の絵がかけられています。

教区教会は、1817年には3000人を収容したとされ、現在のギャラリーの上に、もうひとつのギャラリー（その名残は、オルガンの両側に見られる）が、建物の三方を囲んで配されていました。

現在のオルガンは、国内で最も優れた演奏会用楽器のひとつです。オーストリアのオルガン工房リーガー社によるもので、近隣の英国王立音楽大学との共同事業として、1987年7月

セント・メリルボーン教区教会は、ロンドンの中心部で、キリスト教の証に積極的に携わっている場所です。約900年にも遡る歴史を持つこの教会では、古くから知られる卓越した音楽と礼拝で神を崇拝し、多様性に富んだ地元地域社会への貢献を続けています。

ハーレー・ストリートからすぐの所に位置するセント・メリルボーンは、30年以上に渡り、キリスト教による癒しに率先して取り組んできました。世界的に評価の高いセント・メリルボーン・ヒーリング・アンド・カウンセリング・センターを抱え、低価格の分析的な心理療法と精神的な指針を提供すると共に、セント・メリルボーンの地下室にはまた、先進的な取り組みを行うNHS（国民医療サービス）の診療所、メリルボーン・ヘルス・センターを擁しています。我々の取り組みは、医学関連のロイヤル・カレッジと緊密で積極的な繋がりを維持することにより、またロンドン・クリニックとキング・エドワード7世病院へ牧師を派遣することを通して、一層充実したものとなっています。

セント・メリルボーンには、活発な活動を行うヤング・チャーチがあり、我々の二つの学校—セント・メリルボーン英国国教会学校及びセント・メリルボーン英国国教会ブリッジ学校—と互いに協力し合っています。前者は、優秀なアカデミー、ナショナル・ティーチング・スクール、更に数学ハブでもあり、また後者は、言語障害やコミュニケーション障害を抱える中等教育年齢の生徒を受け入れているフリー・スペシャル・スクールです。それと同時に、セント・メリルボーンは英国王立音楽大学やウェストミンスター大学とも緊密に連携し、牧師を派遣しています。また、リージェント大学とも連携しています。

ロンドン教区の教区教会として、この偉大な国際都市の教会は、キリストを中心とした開かれたものであるべきだと考えています。神の恩寵により、更に強い確信をもってイエス・キリストの福音を伝えそして実行し、更に深い慈愛をもって父なる神の愛で他者に仕え、神の力で更に豊かな発想をもって新しい人々や場所へたどり着こうと努めています。

現在の教会を建設することが、1770年に初めて検討されました。パディントン・ストリートに建設する予定で、王室付建築家のウィリアム・チェンバース卿が設計を行いました。計画は放棄され、建設用地は墓地として購入されました。1810年から1811年にかけて現在の敷地が確保され、この建物は近くの教区教会の活動を補佐する分会堂のひとつとなる予定でした。

ウィリアム・チェンバース卿の教え子であったトマス・ハードウィックが設計を行い、1813年7月5日に礎石が据えられました。後に建物を拡張して教区教会とすることとなり、現在の塔が建立され、正面を広げて、巨大なコリント式の柱を備えたポーチが建設されました。アーチ型の天井を持つ地下室が教会全体の下に広がり、その西側は広大な地下墓地となりました。

これらの地下墓地は、1853年に煉瓦で塞がれました。1980年代半ばに、然るべき権限で地下室から棺が運び出され、サリー洲のブルックウッド墓地に改葬されました。地下室は今日